



# 福祉 櫻木のもり



## 祝

### 百歳おめでとーございます



筒井照子  
さん  
(桜井自治会)



溝渕美恵子  
さん  
(向井第一自治会)



ほころび始めた梅のつぼみに、春の  
きざしが感じられる時節となりました。  
昨年、高齢者の皆様に「つなご  
ろう・つなげよう」アンケートを実施  
し、多数のご回答を頂きありがとうございました。

お困りごとの中に、コロナ禍で外出  
の機会が少なくなり閉じこもりがちに  
なった、また話し相手がいないなどの  
ご意見が寄せられました。

そこで、昨年開催し好評だった「さくら  
カフェ」を拡大して実施、お近くの集会所、公園などへ、「出前さくらカフェ」と  
して出向きます。お抹茶やコーヒーを  
飲みながら、おしゃべりを楽しませ  
んか。まずは、身近な方々との出会いから  
始めたいと思っています。「つながる  
う・つなげよう」を合言葉に、互いに  
寄り添い楽しくふれあう場を作って  
多肥地区に住んでよかったと思える  
まちづくりを目指していきたいと考え  
ていますので、ご理解ご協力よろしく  
お願い申し上げます。



多肥地区  
社会福祉協議会  
会長 大野 敏子

## 令和5年度多肥地区社会福祉協議会役員

顧問	大熊 裕樹 (高松市立多肥小学校 校長) 建林 直子 (高松市立多肥幼稚園 園長) 森田よし子 (高松市立多肥保育所 所長)	理事	橋本 浩之 (高松市議会議員) 宮地 秀樹 (多肥百寿会連合会 会長) 石井 浩二 (多肥地区体育協会 会長) 小野 裕子 (多肥地区交通安全母の会 会長) 山崎 英治 (高松市消防団多肥分団長) 喜多 君代 (多肥地区連合女性防火クラブ) 細川 浩志 (多肥地区青少年健全育成連絡協議会 会長) 香西 泰治 (多肥地区桜の里保存維持実行委員会 会長)
会長	大野 敏子 (高松市社会福祉協議会 理事)	下表の民生委員	
副会長	喜多 敬三 (多肥地区連合自治会 会長 多肥地区コミュニティ協議会 会長) 上原 義和 (連合自治会副会長・衛生組合協議会会長) 鶴身 仁美 (多肥地区保健委員会 会長)[兼任] 喜多 康高 (多肥地区民生委員児童委員協議会 会長)[兼任]	監事	竹本 直人 (香川県農協多肥支店長) 吉原 幸夫 (民生・児童委員)[兼任]
		事務局 事務局 兼 会計	植田 一彦 (多肥コミュニティセンター長) 井上眞佐美 (多肥コミュニティセンター)

## 多肥地区 民生委員・児童委員名簿

\*福祉に関する身近な相談相手として、また、関係機関や行政とのパイプ役として、お手伝いをします。  
\*民生委員の身分は、「特別公務員」です。公務員には、「守秘義務」という厳しい決まりがあり、知り得た事を他人には絶対に漏らすことはないの、安心してご相談ください。

担当地区名	担当者名	電話番号	担当地区名	担当者名	電話番号
下所 (レインボー通り西側)	藤本 京子	866-1381	中央団地・出口の一部	御船 啓子	889-1300
下所 (レインボー通り東側)	竹本 均	867-0344	出口の一部・野郷	鶴身 仁美	889-1659
下所地区内マンション	玉野 展久	865-7804	桜井・向井北・向井第一	佐竹 博巳	889-1758
本村二部	藤本 行治	867-4754	天満・前邸・天神	喜多 康高	889-2626
本村一部		889-4956 (多肥コミセン)	出作前原・出作本町の一部 出作団地	吉原 幸夫	888-4169
ひぐらし団地・ハイクレスト高松 クリアガーデン多肥上町・他	本多 友恵	889-4956 (多肥コミセン)	出作本町・出作西・他	十河 由美子	888-0764
本村三部	五藤 千花	867-5216	多肥団地西・多肥団地東	妹尾 容子	880-0968
道佐古の一部・北原	池田 祥一	889-6890	南部・立石第一・立石	牧田 千栄	889-6872
道佐古の一部・中所	田中 準一	889-0490	横市・多肥南団地・妙同石 グリーンタウン多肥上町・幸南	水原 由比子	888-3606
上西・(出作北)	中原 洋二	889-0610	主任児童委員	平尾 ラミイ 久保 諭世	889-0106 889-0805

\*詳細については、多肥コミュニティセンター **087-889-4956** までお問合せください。

## 社会福祉法人 高松市社会福祉協議会

福祉・介護に関することなんでも相談ください!



ご相談・お問い合わせ 福祉に関するご相談は **087-811-5666** 介護に関するご相談は **087-806-0500**

# 社会福祉協議会 の取り組み

多肥地区における社会福祉を目的とした、様々な取り組みをご紹介します。

## サロン推進事業

地域で孤立しがちな高齢者、子育て中の母親などの交流の場や、仲間づくりのため、現在4ヶ所でサロン推進事業を実施しています。

それぞれのサロンで着物のリメイクや、脳トレ・手芸・寄せ植え・歌やゲームなどさまざまな活動を行いました。どなたでもご参加頂けますので、多肥コミュニティセンターまでお電話などでお問い合わせください。



さくらサロン

@多肥コミュニティセンター



にこここサロン

@多肥コミュニティセンター



ふれあいサロン

@下多肥本村集会所



いきいきサロン

@老人憩いの家

※本事業は、高松市社会福祉協議会からの助成金・赤い羽根共同募金の高齢者福祉事業、参加者会費を活用して開催しています。

## 子育て支援

育児を助け合える、子育てのしやすい地域を目指して、コミュニティセンターで子育て支援活動を行っています。

### ● ママとベビーちゃんの音楽教室

親子がふれあいながらさまざまな音楽に触れながら楽しんでます！



### ● ママのリフレッシュヨガ

いつも頑張っているママもリフレッシュ！お子様と一緒に、ママ1人の参加でも大歓迎！



## 友愛訪問

安否確認や孤独感の解消を図るため民生委員による見守りを行っています。

65歳以上の一人暮らしや寝たきりの高齢者宅を、民生委員が訪問します。

今年も訪問を行い、粗品をお渡しさせていただきました。

※該当する方で、訪問が実施できていない方は、コミュニティセンターにご連絡ください。



## 橋本浩之

高松市議会議員



立春の候、多肥地区の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと、お慶びを申し上げます。平素は、一方ならぬご支援を賜り、誠にありがとうございます。

又、昨年の統一地方選挙におきましては、ご支持ご支援を頂き、三期目の高松市議会に送り出して頂き、もう十ヶ月、都合九年目が終わろうとしており、月日の過ぎる早さを実感しているところでございます。大変お世話になりました。ありがとうございます。改めてこの場をお借りして、御礼を申し上げます。

さて、多肥地区は、平成一六年五月の線引きの廃止、いわゆる市街化調整区域の撤廃により市街化調整区域においては、これまでの建築物等の用途に対する立地制限が大幅に緩和され、特に住居系の建築が可能になりました。その後の変貌は予想を上回るもので、

皆さんご承知のとおりです。因みに平成一六年四月の多肥地区の人口は九〇六三人でしたが、令和六年一月の人口はというと、一六〇三七人と七千人近くも増加しているのです。そこで、令和三年二月に「多肥地区地域福祉ネットワーク会議」を発足させたところです。この組織は、社会福祉協議会の大野会長をネットワーク会議の会長として多肥地区内の様々な所属団体のメンバーを構成員とするもので、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、多様な主体間の情報共有及び連携強化を図り、地域住民の協働による生活支援等サービスの体制整備、ネットワークの構築等を推進するため、設置されたものです。

さて、今年の一月一日には、記憶にも新しい最大震度七令和六年能登半島地震が発生しました。南海トラフ地震の発生確率は、今後三十年以内で七十〜八十％程度、五十年以内になると九十％程度まで高まると思われる状況です。いつ発生してもおかしくない状況です。そのために、有事の際に、この多肥地区内において、地域との繋がりが薄い独居の高齢者が取り残されることのないように今から備えておかなければなりません。皆様のご協力をお願いしますとともに、私も地域の応援団としてしっかり働かせて頂くことを誓いして、ご挨拶とさせていただきます。

高松市社会福祉協議会

## 菰口和己 谷本絵里香



多肥地区のみならず、こんにちは。

高松市社会福祉協議会地域共生社会推進室香川支所、多肥地区の担当をしております菰口（こもぐち）と谷本です。私たちは、「生活支援コーディネーター」と「まるごと福祉相談員」の二つの役割をもって活動しています。

【生活支援コーディネーター】として「多肥地区地域福祉ネットワーク会議」では、地域のみならずの困りごとや、できる事・できない事の「見える化」を行っています。また、会議で、多肥地区の各種団体同士で情報交換・情報共有を行うことや、多肥地区住民主体で行えるサービ・活動の企画・開発の検討を行う等、住民の支え合いネットワーク作りのお手伝いをさせていただきます。

【まるごと福祉相談員】は平成三十年八月に高松市から社会福祉協議会の

福祉の専門職（社会福祉士・ケアマネジャー）へ委託を受けて、香南地区・勝賀エリアの活動が始まり、仏生山エリアの多肥地区では、令和三年十月からスタートしています。

活動内容は、高齢者・障がい者・子ども・子育て世代・生活困窮等の分野を問わず、困りごとを抱える人の相談をまるごと受けとめ、深刻化する前に各専門機関等へつなぐ支援を行っています。秘密や個人情報を守り、相談窓口等へお越しのご本人やご家族の気持ちに寄り添ってサポートしていきます。窓口へ、自ら相談に行くことが難しいようであれば、自宅等への訪問も行っています。

今後も、「多肥地区をひとつに」というテーマのもと、課題を抱えた人や世帯に「気づく」「つなぐ」ができることで、人と人とのつながりそのものがセーフティネットの基礎となり、おたがいさまで助け合いながら暮らしていけるまちづくりのお手伝いをしていきます。



活動を  
紹介する  
パンフレットも  
あります



# 敬老記念品 お渡し

令和五年、75歳以上の多肥地区在住の皆様にご長寿を祈念して記念品をお渡ししました。

長寿をお祝いする取り組みとして毎年行っている敬老記念品のお渡し。開催場所を14か所に設けて六年目となります。

中部連合自治会館



若宮神社



カフェあすみ



南部平成会館



真行寺



コミュニティセンター



本村集会所



多肥団地集会所



マリア幼稚園



老人集いの家



多肥南団地集会所



中央団地集会所



下所集会所



たっぴーがでたら  
当たり★

今回初めて  
ダブルチャンス賞として  
抽選会を行いました



大井美智枝様



坂東良信様

本年も尊い寄付をいただき心から御礼申し上げます。

社会福祉事業にご寄付をいただいた方への感謝状をお渡ししました。

# 金婚祝品 贈呈式

令和五年、金婚式を迎えられた13組のご夫婦のみなさま、おめでとうございます。

九月十一日にコミュニティセンターで贈呈式を行いました。対象者の方にご列席いただき、高松市老人クラブ連合会からは賞状と金杯を、また多肥地区社会福祉協議会からは、お菓子とお花を贈呈させていただきました。



# 龍雲中学校



校長 浜口和也

### 私たちの学校

多肥地区の皆様には、日ごろから温かい見守りとご支援で、子どもたちの成長を後押ししてくださっていること、心から感謝申し上げます。

本年度の本校の生徒数は千百一十名で、約半数の生徒が多肥小学校の卒業生です。一時の急激な生徒数の増加は落ち着いたものの、今後も少しずつ増加する見込みです。本校では、子どもたち一人ひとりが自分の可能性を最大限に引き出せるよう、様々な教育活動を展開してまいります。学力向上はもちろんのこと、豊かな人間性や社会性を育む教育に力を入れていきます。学校で学ぶだけでなく、地域の皆様との交流を通じて、思いやりの心や協調性を学んだり、自己肯定感や地域を愛する気持ちを育てたりすることも大切にしていきます。新型コロナウィルスへの対応の変化と共に、地域の行事も

徐々に復活し、さくらまつりや町民文化祭に吹奏楽部や合唱部が参加させていただいたり、夏祭りで大いに楽しませていただいたりしました。多肥地区以外にも行事が開催されるようになり、子どもたちが演奏をしたり、ボランティアをしたりする機会が増え、貴重な経験となつていきます。また、地域の皆様からは、お叱りを受けることもあるのですが、子どもたちに良い行いが見られた時にもよくご連絡をいただいております。本当に感謝しております。お叱りの言葉もお褒めの言葉も子どもたちにはその都度伝えていきます。そしてそれは、子どもたちの心の成長と正しい行動につながっていると確信しています。



# 多肥小学校



校長 大熊裕樹

### 地域を知り、地域に学び、地域を愛する子ども

日頃は本校の教育活動にご理解とご支援をいただきまして、心よりお礼申し上げます。

多肥小学校では「自ら考え、心豊かに、ともに生きる子ども」の育成一歩の学校教育目標に向けて、地域や保護者の皆様にも協力いただきながら教育活動を行っています。本校では、教育重点項目の一つ「まちづくり」に参画するシビックプライドの醸成のもと、総合的な学習の時間「しあわせ学習」を核に、児童にシビックプライドを育てる活動を行っています。豊かな体験を通して自分の生活する地域について知り、そのよさや課題を見出して発信し、地域の形成りにかかわっていかうとする態度を育てたいと考えます。

本年度、三年生児童は、町探検で彦作池公園を訪れた際、愛護会の方のお話から、「多肥の公園を、みんなが気持ちよく過ごせる美しい場所にしたい」との願いをもちました。そのため自分の力を生かそうと、公園の清掃活動を行い、多肥西公園に花を植えました。また、六年生は説明文の内容から町づくりについての考えを深め、「多肥の町をこんな町にしたい。そのためにはこのような取組をしたい」と考える学習を行いました。それを「まちづくりプラン」としてプレゼンにまとめ、コミュニケーションセンター長さんや、企業、提案しました。



このような学習により、これまで特に意識せず見逃していたものに気づくことができ、それが、自分の町である多肥を深く見つめることにつながりました。シビックプライドは、まず、「知る」「見つめる」ことが第一歩となります。地域とつなぐ学習や地域行事の中で、「地域を知り、地域に学び、地域を愛する」子どもたちが育っていくことを願っています。皆様、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

ます。そこから、町と自分の距離が近くなり、関心が生まれ、行動へとつながっていくのです。昨夏には、コミュニケーション協議会やPTAのご協力を得て、さくら公園にて、「子どもと地域をつなぐ多肥地区ラジオ体操」が行われ、大勢の子どもたち、保護者や地域の方々が集まりました。終了後、参加者はカードにスタンプを押してもらい、とてもいい表情をしていました。私も参加しましたが、夏の朝、公園や神社などに集まり、大人も子どももみんなで一緒にラジオ体操をした、あの懐かしい昭和の風景が思い出され、とてもいい気持ちになりました。先月の餅つき大会でも、子どもも大人も一緒になって杵で餅をついたり、地域の方に教えてもらいながら手で丸めたりして、寒空のもとで心はほっこりと温かく、楽しいひとときとなりました。

# 多肥幼稚園



園長 建林直子

多肥地区の皆様には、平素より幼稚園教育にご理解・ご支援を賜り心より感謝申し上げます。

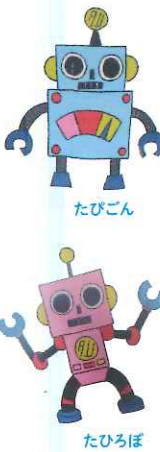
昨年度、多肥幼稚園長に就任し、「やってみよう」の合言葉のもと、いろいろなことにチャレンジすることを大切にしてきました。令和5年度は、さらに「みつけよう・やってみよう・話してみよう」と付け加え、まずは、やってみようを見つけたら、実践し、みんなに伝えたいような活動を大切にすることにしました。現在、全園児で35名、一人一人のやってみようをそれぞれが積み上げていくことをしっかりと支えていきたいと職員も子どもたちと共に成長中です！

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更され、子どもたちの成長を感じていただく節目の行事、運動会や生活発表会においては、全学年通して全保護者の方に見ていただくことができました。たくさんの方の拍手、あたたかな雰囲気の中で、子どもたちは伸び伸びと表現し、またひとつ自信へつながりました。地域の方のご厚意により毎年行っている「どんご遊びや田植え、稲刈りでは、丁寧に優しく教えてもらい、地域の方のあたたか

さに触れながら貴重な経験をさせていただいています。久しぶりに行ったびかびかデーでは、にこにこ畑(園東側の畑)で栽培したコキアで作ったぼうぎを使ってお掃除をしました。百寿会の方にほうぎの使い方や雑巾の絞り方等を教えていただいた後、触れ合い遊びや歌のプレゼントをして、心も体もポカポカになりました。運動会の予行の日、子どもたちの演技の後、新運動場からの帰りに幼稚園横を通りかかった小学生が立ち止まり、拍手をしてくれました。日々、自然に交流できる環境に感謝です。保育所の5歳児との交流も増やし、互いの施設に行き交う仲間としていろいろな出会いや触れ合いも大切にしています。久しぶりに龍雲中学校の職場体験活動もあり、多肥地区の子どもたちや職員、地域の方とつながる喜びを実感することができました。



園舎のロボットをモチーフにしたキャラクター「たびごん」と「たひろぼ」がなごま入りした多肥幼稚園。これからも地域に開かれた幼稚園として楽しいことをいっぱい見つけ、いろいろなことに「やってみよう！」の精神でチャレンジします。地域の皆様、今後ともご支援、ご指導をいただきますようお願い申し上げます。



# 多肥保育所



副所長 木村千絵

多肥地区の皆様方には、日頃より保育所保育教育に格別のご理解とご厚情を賜り心から感謝申し上げます。

私は、今年度副所長として赴任して参りました。まず、私が最初に驚きましたのは、さくらまつりの賑わいでした。たくさんの方が集い、笑顔で楽しんでる姿に、地域のパワーを強く感じました。保育所では、「自分の思いや考えを生きていきと表現し、しなやかな心と身体を持った子どもに」を大切に保育をおこなっています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、保育所も徐々にコロナ前の保育現場に戻りつつあります。運動会や発表会では、子どもたちの頑張る姿に保護者の方のたくさんの方の応援と拍手が響いていました。温かな声援は、子どもたちの次への意欲へと繋がっています。幼稚園や小学校との交流も増え、同年齢の友達と遊んだり、小学校で一年生と触れ合ったりするなか、学校への憧れや期待が膨れています。また、百寿会の方との交流も去年度

までは、縮小しておりましたが、今年度は、どんごあそび、田植え、さつまいものつるさし、芋掘り、平和の集い、稲刈り、しめ縄作り、史跡巡りなど経験することができました。例えば、すでに精米されてパッケージされたものしか見たことがない子どもがほとんどという昨今。昔ながらの稲作体験は、子どもにお米の大切さやありがたみ、収穫の喜びなどを感じることもできる貴重な体験です。稲わらを使ったしめ縄作りでは、目の前で、百寿会の方達が、藁を両手でよじつけていき、瞬く間にしめ縄ができていく光景に子どもたちはびっくりしていました。今ではなかなか見ることのできない先人の知恵を知ることができ、よい経験となりました。百寿会の方との交流で得た経験は子どもたちにとってかけがえのない宝物となっています。これからの未来を生きていく子どもたちが地域の中で健やかに成長していくことができるよう願っています。地域の皆様には、今後ともご支援、ご指導を頂きますようお願い申し上げます。

